HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	現代ウイグル語の漢語借用に見られる音韻現象
Author(s)	魏力, 米克拉依
Citation	研究論集, 11, 29(左)-50(左)
Issue Date	2011-12-26
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/47867
Type	bulletin (article)
File Information	3_RONSHU_11_WEILI.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

現代ウイグル語の漢語借用に見られる音韻現象

米克拉依（ミヒライ）・魏力（ウィーリ）

要　旨

本稿は，主に現代ウイグル語の漢語借用に見られる音韻現象を分析ものである。具体的な分析の対象は音の対応，母音脱落・融合，渡り音による再音節化などの現象であり，系統的な関連性がない両言語の間に起こる一定の音の対応及び音節構造を決定する要因について検討する。まず，背景となる漢語借用の先行記述及び現状などから漢語借用語の典型的な音の対応を，次の５つにまとめる：1）複合母音の短縮；2）唇歯摩擦音の両唇閉鎖音化；3）漢語 zi［ʦɿ］の母音同化；4）そり舌音の硬口音蓋化；5）破擦音の摩擦音化；次いで，現代ウイグル語の音韻特徴と音節構造を先行記述に基づき，借用語の音韻特徴を考えるとき，そもそも地域で話される借用元となる漢語方言を基盤として考えるべきことを示す。そして，日常的に定着している漢語からの借用データを基に，借用語の音韻構造について再検討を行う。音韻構造の中でも音の変化と音節構造に焦点を置く。そこで，結論として具体的には次のようなことを挙げる：1)母音連続を避けるため，母音脱落，半母音化などが起きる；2）唇歯音 f［f］＞両唇音 p［p］＞両唇音［Φ］への変化する可能性；3)ウイグル語の閉音節語に対し，借用により開音節語彙が増加している；4)借用語の再音節化はウイグル語の音韻規則に合わせるということを母語話者の漢語使用認識から述べる；5）漢語方言による借用語での n と ng の混同の可能性を指摘する。

１．はじめに

本稿のねらいは現代ウイグル語[1]（以下，ウイグル語）における漢語借用の音韻現象を分析す

[1] 現代ウイグル語は中国の西北部に位置する新疆ウイグル自治区内を中心に話されているチュルク系言語である。現代ウイグル語は地域によって大きく中心区，ホータン（和田），ロプノール（羅布）

ることにある。長期にわたる言語・文化の接触で，ウイグル語には漢語からの語彙が直接借用により日常的に幅広く使用されている。それらの語彙が借用される際，音韻変化が起きたもの（šaŋxo「からかう（*Chinese*. 笑话 xiaohua）」，yamul「衙門（*Chi*. 衙门 yamen）」）と本来の音形を保ったもの（dufu「豆腐（*Chi*. 豆腐 doufu）」，fudaw「補導する（*Chi*. 辅导 fudao）」）のなど２つの場合もある。なお，fudaw という形式が，年齢層により/pudaw/という発音で実現する場合もある。この２つの場合について詳しく考察すると，一定の範囲でウイグル語の音韻規則に従いウイグル語化されていることが確認できる。

しかし，従来の記述のみでは，音韻対応に関して充分に説明することができない現象が見られる。本稿では，現在，ウイグル語話者が漢語からの借用語をどのように認識するのかをふまえた上で，社会言語学の視点から借用語の具体的な音の対応，母音脱落・融合，渡り音化などの現象を再検討する。最後に，借用語がウイグル語で再音節化される過程をみる。

本稿では扱う漢語借用の分析資料として，日常生活会話で使用頻度が高く，固定アクセント形式で現れる借用語彙を中心に用いた。辞書・参考文献などに収録されていない借用語のアクセントは，現在日本在住のウイグル語母語話者 Rustem 氏（20 代，男性，ウルムチ出身）の協力を得て再び検証した。検証方法として，アラビア文字基礎のウイグル文字で明記した合計 145 語を協力者に提示し，各語を２回ずつ読み上げてもらい，録音した。協力者のアクセントの実態を把握するため，アクセントの記号は一切提示せず，発音の指示も一切行わなかった。

また，検証に基づき，借用語の音声・音韻面における先行研究の記述を補足し，さらなる発展の可能性を示唆した。本稿では，借用元の漢語は特に明記しない限り標準語のピンイン表記で示す。なお，日本語以外の言語で書かれた先行研究の訳及び実例のグロスは筆者によるものである。

全体の構成は次のとおりである。まず，１.では漢語借用における先行研究を概観し，借用語の使用状況を述べる。次に，２.では先行記述に基づき，ウイグル語の基本的な音韻特徴を挙げる。３.では漢語借用語の典型的音韻構造を用例から再検討する。そして，４.では，漢語借用語の形態特徴と音節構造について考察し，再音節化の過程をみる。最後に，５.では，結論を述べる。

の３つの方言に分類することができる（趙相如，朱志宁 1985：112）。中心区方言はウルムチを中心に，東部はクムル（漢語では，哈密），西部はイリ（伊犁），南部はカシュガル（喀什）という広い地域に渡って分布し，トルファン（吐魯番）方言，イリ方言，カシュガル方言など，さらに３つの下位方言に分類され，母語話者の８割が中心区方言を使用しているという（趙相如ら 1985：112，高士杰 1994：146）。

1．漢語借用の研究現状

1.1　先行研究

Novgorodskij (1951) は現代ウイグル語における漢語借用語の先駆的研究であり，言語干渉の視点から，借用語の音声・意味・形態的な面を通じて，漢語からの借用がウイグル語化される過程に注目している。同書では，話し言葉から書き言葉のものまで 286 語が記述されている。

Raximov (1970) は，中国の政治体制や社会状況を反映する借用語の受容の多様性を論じる。漢語借用がどのような分野に及び，どのような要因で出現しているか，また意味的側面などを紹介し，政治・軍事・経済・生活用品などの語彙集として約 1600 語をまとめている。

一方，中国でも研究者たちによる多くの漢語借用に関する研究成果が多く出されている。そのほとんどは語彙の干渉に関する研究であり，主にウイグル語において借用語の歴史的発展及び借用形式（音訳借用，翻訳借用など）を例に挙げながら，中国の政治体制や社会状況を反映する借用語の受容の多様性を論じている。

そのうち高莉琴（2005a，2005b）では，異なる時期に導入された漢語借用の過程を明らかにしている。特に，高莉琴 (2005b) は文献をデータとし，時代ごとに幅広くまとめた漢語借用の語彙集であり，語彙の借用全般を見渡すことできる。しかし，高莉琴 (2005b) では借用語の音韻構造について触れていない。

次に，借用語の受容形式に関する記述に限って紹介する。

鐘家芬 (1995：54)，陳慧優ほか (1996：14) では借用語の音の対応について詳しく分類されており，借用元漢語の唇歯音 f [f]，そり舌音 zh [tʂ]，ch [tʂʰ]，sh [ʂ] がそれぞれウイグル語の両唇音/p/，硬口蓋音/j，c，š/に対応すること，漢語 zi [ʦɿ]「子」の母音調和による変化，介音の脱落など，典型的な現象を用例で検証する。そのほか，鐘家芬(1995：54-57)では，(一) 音訳借用，(二) 半意訳借用半音訳借用，(三) 造語要素付加による新語形成，などを挙げている。

閻新紅ほか (2000：69-72) は，上述の 3 つの受容形式を取り上げたほか，さらに，音訳借用で起こる「加音」，「減音」，「変音」のような 3 つの調整方法についても記述している。

以上の先行研究を概観すると，Raximov (1970) と高莉琴 (2005a；2005b) を除き，全体的に語彙干渉に関する発音及び音の対応，複合語形成・接辞付加・品詞転換などの語形成，そして意味変化についてが多く，借用語の定着過程と変化を概略的に説明している。

従来の研究で取り上げられた借用語の典型的な特徴を以下のようにまとめておきたい。

1）複合母音の短縮；

Chi. 挂面 guamian「干しめん」> *U*. gamän；語中母音 u，i の省略。

2）唇歯摩擦音の両唇閉鎖音化；

Chi. 裁縫 caifeng「仕立屋」> *U.* saypuŋ；/f/[f]→/p/[p]

3）漢語 zi［ʦɿ］の母音同化；

Chi. 帽子 maozi「帽子」> *U*. moza，*Chi*. qiezi「茄子」> *U*. cäyzä

4）そり舌音の硬口蓋音化；

Chi. 铡刀 zhadao「押切」> *U*. jado；zh，ch，sh［tʂ，tʂʰ，ʂ］→j，c，š［dʒ，tʃ，ʃ］

5）破擦音の摩擦音化；

Chi. 白菜 baicai「白菜」> *U*. bäysäy；c［ʦʰ］→s［s］

本稿では，上述の先行研究を踏まえた上で，漢語借用語の音韻・形態的特徴についての考察を試みる。

1.2　漢語借用の使用認識

中国国家統計局が発表した 2000 年の第 5 回人口調査[2] によれば，新疆ウイグル自治区の総人口はおおよそ 1850 万人，ウイグル語母語話者は総人口の 5 割近く約 835 万人を占める。そして，優勢言語である漢語の母語話者数も自治区内で総人口 4 割の約 749 万人に達する。こうした人口の割合から見ても，新疆地域で話されているウイグル語，並びに漢語の二言語併用者（bilingual）がわかる。

ウイグル語母語話者は学校で自分の民族言語以外，通用範囲が広い言語として漢語を第二言語として学ぶ。だが，民族言語と漢語を同レベルまで達成させる教育「双語教育」によって，地域の経済発展と急速に変化しつつある多様化社会に対応できる「民漢兼通」を備えた人材の養成を図るようになってきている。1992 年から 2002 年にわたって逐次実施された中・高学校教育では，理数系科目の教授言語に漢語を用いる「双語実験班」制度，高等教育機関では，ウイグル文学などの特殊科目以外は教授言語を漢語で統一するなど漢語教育がさらなる展開を迎えている（高莉琴ほか 2006）。さらに，新疆ウイグル自治区党委員会・人民政府による決定[3] に基づき，2006 年までに条件を備えた大都市の小学校一年生から，（もしくは条件を備えた幼稚園から）母語以外のすべての科目は漢語で授業を受けるようになり，その他の地域は 2012 年までに目標を達することとされた（力提甫 2008：209）。このような状況に対し，力提甫（2008：209）は，民族言語の使用範囲は家庭内に縮小してゆくと指摘している。

現在，ウイグル語母語話者同士の談話で，辞書に収録されていない漢語からの語彙を思わず挟み込んでしまう頻度は少なくない。特に，インターネット，マスコミ・メディアや広告などの情報化の影響で，流行語に引きずられることも決して見過ごすことができない。若年層の会話で，自然に漢語から吸収した語彙を使用する傾向は急激に増えている。これらは，もっぱらウイグル語に存在しない新しい概念を端的に言い表す語彙である。例として次のいくつかの語

---

[2] 2000 年の人口調査の情報については「中華人民共和国国家統計局」http://www.stats.gov.cn を参照。

[3] 「関于大力推進双語教学工作的決定［新党发（2004）2 号］」について張燚（2010：133）を参照。

をあげる。

(1) bawän「警備員（*Chi*. 保安 baoan）」
bawšyän「保険（*Chi*. 保险 baoxian）
biŋšaŋ「冷蔵庫（*Chi*. 冰箱 bingxiang）」
dängaw「ケーキ（*Chi*. 蛋糕 dangao）」
pawmo「ファームプラスチック（*Chi*. 泡沫 paomo）」
fakuän「罰金（*Chi*. 罚款 fakuan）
šyänka「ビデオカード（*Chi*. 显卡 xianka）」
šubyaw「マウス（*Chi*. 鼠标 shubiao）」
säyliŋ「着うた（*Chi*. 彩铃 cailing）」
yaŋruŋ「カシミア（*Chi*. 羊绒 yangrong）」
yazor「個室（*Chi*. 雅座儿 yazuor）」

しかし，1999 年に新疆人民出版社によって出版された総収録語数約 5 万の『ウイグル語詳解辞典』に収録されている漢語借用語は僅か 356 語しかない[4]。ジャンル別にみると，政治•軍事•経済・生活関係の名詞が目立つ。このような語彙はウイグル語の言語体系に完全に定着した借用語と見なされる。では，実際のところウイグル語母語話者はどのぐらい漢語を受け入れ，使用しているのか，共同社会生活で密接に相互作用の関係に立つウイグル語と漢語は「借用」が起こる条件を満たしていると考えられる。

こうして話し言葉での漢語借用の増加に伴い，発音・綴りの面では年齢層による差異が生じる。筆者の観察した限りで一番はっきりした違いは次の二点である。まず，高齢者の場合は，固定アクセント形式で現れる。次は，対応する音が若干異なる点である。

上述の例を再度示す。

(2) 高齢者の場合
pomo「ファームプラスチック（*Chi*. 泡沫 paomo）」
boän「警備員（*Chi*. 保安 baoan）」
pakän「罰金（*Chi*. 罚款 fakuan）」

(3) 若年層の場合
pawmo「ファームプラスチック（*Chi*. 泡沫 paomo）」
bawän「警備員（*Chi*. 保安 baoan）」
fakuän「罰金（*Chi*. 罚款 fakuan）」

若年層は借用元となる漢語の音に近く，一時的な漢語使用へのコード切り替えによるものといえるが，その使用頻度は比較的高い。つまり，年齢層による違いとして，高年層はウイグル語化して発音される傾向が多く，若年層は漢語に近く，あるいは漢語と同様に発音する傾向が見られる。しかし，音韻的にウイグル語化されないまま日常的に使用される語彙は借用語と判断すべきか，議論する余地が残される。ただし，本稿では記述の混乱を避けるため，早期に借

[4] 漢語とされている項目の数を筆者が数えた。

用された語彙を除き，検討する事例は若年層の発音を中心に述べることをあらかじめことわっておく。

2．現代ウイグル語の音韻特徴

漢語からの借用の特徴を述べる前に，本稿の内容に関わる現代ウイグル語の基本的な音韻特徴について触れておきたい。ここでいう現代ウイグル語は中心区方言を基準としたものに該当する。

ウイグル語の音韻を含む全般的な記述は Näsrulla（1980），趙相如ほか（1985a，2008b），蘇哈社科院（1987）[5]，Hahn（2006），Zäynäp（2008）などで確認されたい。ウイグル語の基本音素を 2.1 に，音節構造を 2.2 に示す。

2.1　基本音素

まず，ウイグル語の母音は/a，ä，i［i〜ɨ〜I］，ü，u，e，ö［ø］，o/の 8 つである。全体としては，舌の位置，舌の高さ，唇の形の 3 つの点で対立する。

表 1　ウイグル語の母音目録

	前舌母音		後舌母音	
	非円唇	円唇	非円唇	円唇
［＋高］	i［i〜ɨ〜I］	ü［y〜ʏ］		u
［－高，－低］	e	ö［œ〜ø］		o
［＋低］	ä［a〜æ〜ɛ］		a［ɑ〜ʌ］	

（竹内 1991：399 に基づき，一部加筆）

一般にチュルク諸語の他の方言では，短母音と長母音が区別されるが，ウイグル語においては，弁別的な区別はない。なお，発音の際，音節末子音脱落などによって，直前の母音が長く発音されることがある。（ː＝音の長さ，．＝音節境界）

(4)　qar.liq［qaːliq］「雪のある」，qar.li.ʁac［qaːliʁac］「ツバメ」

/i/は幅広い異音［i〜ɨ〜I］を持つ。音節末の接近音/y/が消え，直前の/i/が(5)のように長音化する場合がある。

(5)　siy.paš［siːpaš］「撫でる」，siy.ril.maq［siːrilmaq］「滑る」
　　mär.ki.ziy［märkiziː］「中心」，am.mi.wiy［ammiwiː］「公共の」

[5]　蘇連哈薩克斯坦社会科学語言研究所維吾爾語研究室の略語。

狭い母音/i/,/u/,/ü/は無声化しやすい。趙相如ほか(1985：7)は，これらの母音の無声化について，アクセントを持たない第一音節に現れる場合と，無声子音の前あるいは間で挟まれる場合と指摘している。また/i/,/u/は無声化が生じる際，それぞれ硬口蓋摩擦音［ʃ］，両唇摩擦音［ɸ］を伴う場合もある（趙相如ほか 1985：7)。

(6) it［i̥t］「犬」，picaq［pi̥tʃaq］「ナイフ」，ikki［i̥ʃkki］「二」
ussa［u̥ssa］「喉が渇く」，uka［u̥ɸka］「弟」，pütün［pyt̥yn］「全部」
（趙相如ほか 1985：7）

/e/,/ö/は，固有語では第一音節にしか現れないが，借用語では制限なく現れる(趙相如ほか 1985：7)。

(7) 固有語　eyt「言う」，kelin「嫁」，qetiq「ヨーグルト」，qeri「老い」
öc「嫌い」，öŋgäc「口蓋」，möšük「猫」，yötkäš「移動する」
借用語　huaŋhe「黄河（*Chi*. 黄河 huanghe)」，dašö「大学（*Chi*. 大学 daxue)」
näyfen「粉ミルク（*Chi*. 奶粉 naifen)」，piŋšö「貧血（*Chi*. 贫血 pinxue)」

ウイグル語には母音調和があり，前舌母音と後舌母音の対立が存在する。また,/i/と/e/は口蓋調和において中立母音としてふるまう。単語に接尾辞が接続する場合，基本的に接尾辞の母音は，語幹の最後の母音が前後どちらの母音であるかによって決定される。原則として，前舌母音と後舌母音が語内部で共起することはないが，中立的な特質を持つ/i/と/e/は前舌母音と後舌母音のどちらとも共起しうる（趙相如ほか 1985：14，2008：14；蘇哈社科院 1987：178)。

このほか円唇性に関する調和もあり，第一音節で母音/o，ö/が現れた場合，第二音節母音の位置に/u，ü/が続く（Näsrulla 1980：5)。

(8) oyun「ゲーム」，ötük「ブーツ」
qol-um「私の手」，köz-üm「私の目」(-um/-üm 1sg.)
toy-up「満腹になって」，kör-üp「見て」(-up/-üp 副動詞)
Näsrulla（1980：5）

一方，ホータン方言では，円唇性の調和が弱くなるという（Näsrulla 1980：6)。そして，中心区方言の下位方言であるカシュガル方言でも同様の現象が生じる。(8)を再掲する。

(8’) oyan「ゲーム」，ötäk「ブーツ」
qolam「私の手」，közäm「私の目」(-am/-äm 1sg.)
toyap「満腹になって」
köräp「見て」(-ap/-äp→副動詞)
Näsrulla（1980：6）

中心区方言のもう一つ特徴として，形態音韻レベルで母音の逆行同化と弱化が起こる。at「馬」の非円唇広母音/a/が狭母音/i/に逆行同化して et-i「馬（彼の）（-i 3sg.）」のように中広母音/e/と交替する。また，二音節語幹 ba.la「子供」の最終音節母音の a は，アクセントをもった接尾辞 lar の付加によって balilar「こどもたち（-lar pl.）」のように/i/に弱化する。

ウイグル語の子音は調音点と調音法により，次のような表で表わすことができる。

表 2　ウイグル語の子音

	唇		歯		硬口蓋		軟口蓋		口蓋垂	咽頭
閉鎖音	p	b	t	d			k	g	q［q～x］	
破擦音					c［tʃ～ʃ］	j［dʒ］				
鼻音		m		n				ŋ		
ふるえ音				r						
摩擦音	(f)	w	s	z	š［ʃ］	ž［ʒ］	x	ʁ		h
接近音						y［j］				
側面接近音				l						

（竹内 1991：400 に基づき，一部表記を改変）

子音は閉鎖音，破裂音，摩擦音において無声／有声の対立が認められる。また，無声子音の後に続く子音は無声子音，有声子音に後続する子音は有声子音になるなど，子音の同化が生じる。

鼻音体系に軟口蓋音/ŋ/があり，語頭に立たないが，ya.ŋaq「胡桃」のように第二音節の始めや語末の ŋ 音は，比較的安定した音素である。そして，末尾音で man「私」と maŋ「ほくろ」のように歯茎音 n と軟口蓋音 ŋ の対立がある。

また，原則として語頭に/r/が立つことがないが，借用語は例外である。流音/r，l/はウイグル語で弱化現象を伴う子音音素とされ，音節末，語末で脱落が生ずる（9a）。語中の脱落では，先行母音の長音化を伴う（9b）。

(9)　a．bar［ba］「行って」，käl［kä］「来て」

　　b．or.ma［oːma］「刈取り」，yalʁan［yaːʁan］「嘘」

摩擦音/f/は，借用語のみで現れる外来（主に漢語，ロシア語から）の音素であり。早期に借用されたと思われる語彙では，漢語の唇歯音 f は両唇音 p として実現する。そのほか，軟口蓋音/x，ʁ/と口蓋垂音/q/は円唇母音/ö，ü/と結合しないという共起制限もある。

以上は，ウイグル語の母音と子音のそれぞれの特徴について述べた。次は，ウイグル語の音節構造について基礎語彙を通じて述べる。

2.2　音節構造

ウイグル語は，ほかのチュルク系言語と同じく(C)V(C)(C)のような 6 つのタイプの音節構造を持つ。固有語で，最も多く使われるタイプは V，CV，VC，CVC の 4 つである。原則として，語頭子音の結合と母音連続の制限がある。一方，VCC，CVCC の 2 つのタイプは数が少ない。そして，尾子音前の位置に許容される子音はふるえ音/r/と摩擦音/s/が最も多く，次に接近音/y/，側面接近音/l/，鼻音/n/などに限られる（趙相如ほか 2008：12）。

現在，ウイグル語には，基本的音節構造と借用語の音節構造を合せて，全部で 11 種類の音節タイプが挙げられる。カッコは借用語に多く用られる音節構造である。

開音節（母音で終わる音節）：V，CV，（CCV），（CVV）
閉音節（子音で終わる音節）：VC，CVC，VCC，CVCC，（CCVC），（CCVCC），（CVVC）

筆者は林（1996）の現代ウイグル語基礎語彙を参考に，2000 語を分析した。その結果，次のことが言える。基礎語彙の中で，最も多いのは三音節以上の構造であり，分析した語数の約 49.4％を占めている。これに続き，二音節語は 30.6％，一音節語は 20.1％である。一音節語は CVC が基本である。二音節語の多くも基本的に CVC が望ましい音節構造である。開音節を含む語が 15％，開音節を含まず，閉音節だけで構成される語が 85％という点から，ウイグル語は閉音節が優勢な言語であることが確認される。以下，基礎語彙から身体語彙や数詞の一部を例に示す。

⑽　一音節語　計 401 語

baš「頭」，bäl「腰」，köz「目」，qaš「眉」，qan「血」，qol「手」，qil「毛」，put「足」，gäl「のど」，göš「肉」，yaš「涙」「顔」，yüz「顔」，til「舌」，tiz「膝」，tär「汗」，tän「体」，tük「毛」，süt「乳」，läw「唇」，cišー「歯」，cac「髪」，may「油」，kir「垢」，bir「一」，üc「三」，tö:t「四」，bäš「五」，on「十」，yüz「百」，miŋ「千」；

二音節語　計 612 語

mö.rä「肩」，te:.rä「皮膚」，kal.la「頭」，saʁ.ra「尻」，dum.bä「背中」，ü.cäy「腸」，to.mur「血管」，ji.gär＞ji.gä:「肝臓」，yü.räk「心臓」，bu.rut「ひげ」，bo.yun「首」，bi.läk「腕」，bä.dän「体」，al.qan「掌」，bu.run「鼻」，qo.saq「腹」，mä.ŋiz「頬」，bar.maq「指」，tir.naq「爪」，kal.puk「唇」，šöl.gäy「唾」，quy.ruq「尾」，kir.pik「眉毛」，jäy.näk「肘」，kin.dik「臍」，söŋ.äk「骨」，kök.räk「胸」，maŋ.lay「額」；ik.ki「二」，al.tä「六」，yät.tä「七」，qi.riq「40」，tü.mänー「万」，säk.kiz「八」，bir.si「一つ」，bä.ši「五つ」，toq.quz「九」，ot.tuz「30」，äl.lik「50」，at.mišー「60」，yät.mišー「70」，säk.sänー「80」，toq.san「90」；

三音節以上の語　計 987 語

pi.šaɾ.nä「額」，ic.ki.ä.za「内蔵」，aš.qa.zan「胃」，pa.qal.caq「すね」，
qi.zil.öŋ.gäc「食道」，so.qur.ü.cay「盲腸」，ke.kir.täk「のど」，ja.ra.hät「怪我」，
ik.ki.si「二つ」，al.ti.si「六つ」，yät.ti.si「七つ」，säk.ki.zi「八つ」，
toq.qu.zi「九つ」，yi.gir.mä「二十」；

三音節以上の語は若干の例を除き，複合語あるいは派生語である。たとえば，ic.ki｜ä.za「内蔵」，aš｜qa.zan「胃」，qi.zil｜öŋ.gäc「食道」，so.qur｜ü.cay「盲腸」は複合語（｜＝複合の境界），ikki-si「二つ」，alti-si「六つ」，yätti-si「七つ」，säkkiz-i「八つ」，toqquz-i「九つ」は派生語と分析できる。通常，二つの語から形成される複合語は本来の音節構造を保持するが，派生接辞によって形成される派生語は bäš「五」→bä.ši「五つ」のように新たな音節構造を作り出す。

以上述べたようにウイグル語の音節構造の特徴とは，語頭子音結合と母音連続を許さないことである。閉音節の尾子音の位置にはすべての子音音素が現れる。そして，二音節語の構造は(C)V(C).CV(C)あるいは(C)V(C).(C)VC で構成される。

3．漢語借用における音韻的特徴

3.1　新疆漢語方言の形成

まず，Novgorodskij (1951)，鐘家芬 (1995：54-57)，陳慧优ほか (1996：14-17) などの記述に基づきまとめた 5 点の規則的な音の変化を以下に再掲したい。

1）複合母音の短縮化；
　Chi. 挂面 guamian「干しめん」> *U*. gamän；語中母音 u，i の脱落。
2）唇歯摩擦音の両唇閉鎖音化；
　Chi. 裁縫 caifeng「仕立屋」> *U.* saypuŋ；/f/[f]→/p/[p]
3）漢語 zi［ʦi］の母音同化；
　Chi. 帽子 maozi「帽子」> *U.* moza，*Chi*. qiezi「茄子」> *U.* cäyzä
4）そり舌音の硬口蓋音化；
　Chi. 铡刀 zhadao「押切」> *U.* jado；zh，ch，sh［tʂ，tʂʰ，ʂ］→j，c，š［dʒ，tʃ，ʃ］
5）破擦音の摩擦音化；
　Chi. 白菜 baicai「白菜」> *U.* bäysäy；c［ʦʰ］→s［s］

従来の記述を概観すると，早期漢語借用において不規則に生じる母音の脱落・融合，尾子音の鼻音混同などの現象が，まだ十分に解き明かされていないまま残っている。問題点の一つとして，借用元の漢語が標準語基礎の北京語と認識されていることが挙げられる。

新疆地域に分布している漢語は漢語官話の下位方言であり，その共通特徴は必然北京語，すなわち北京官話方言と近い関係にある[6]。新疆漢語方言は新疆ウイグル自治区の中央に横たわる天山山脈を境として，北部新疆を中心とする地方で話されている「蘭銀官話方言」と，南部新疆を中心とする地方で話されている「中原官話方言」の 2 つに分けられる（周磊 1998：41；侯精一 2002：9）。

新疆漢語方言について，周磊（1998：41）は清末（1882 年）に中国内地と同様の省制が敷かれ，新疆省が設置された時以来，陝西，甘粛などの地域からの多数の漢語話者が移住することによって形成された方言であると指摘する。したがって，新疆漢語方言の音韻特徴は現代ウイグル語における漢語借用の音韻構造を考えるうえで，軽視できない重要な点と思われる。

こうして成り立った蘭銀官話方言と中原官話との間には差異も見られるが，本稿ではウルムチを土台に話されている蘭銀官話方言のみを扱う。周磊(1995：4-12；1998：41-51)に基づき，「漢語ウルムチ方言」として，以下にその音韻特徴を整理する[7]。

1．漢語ウルムチ方言では歯茎音［s，ts，tsʰ］とそり舌音［ʂ，ʐ，tʂ，tʂʰ］は北京官話のように厳密に区別されない。
2．北京官話そり舌音［ʂ,］，［ʐ,］は韻頭・韻腹が u で構成される韻母と組み合わせた場合，ウルムチ方言では唇歯音［f］，［v］で発音される。
3．北京官話と同様に，無声と有声の対立が存在しない。
4．漢語ウルムチ方言で発音される韻母［ɤŋ　iŋ　uŋ　yŋ］はそれぞれ北京官話韻母の［ən　in　un yn］と［əŋ　iŋ　uŋ　yŋ］の 2 つの形式に対応する。
5．漢語ウルムチ方言では，［ɑŋ　iɑŋ　uɑŋ　ɤŋ　iŋ　uŋ　yŋ］など［ŋ］で終わる鼻音韻母の主母音は少し鼻音化される。
6．漢語ウルムチ方言では，韻母の［ɔ　iɔ］はそれぞれ北京官話韻母の［ɑu　iɑu］に対応する。

ところで，漢語ウルムチ方言は年齢層によって差があり，上述の特徴は高齢者によって話されているとされる（周磊 1995a：4；1998b：43）。一方，新疆各地域で教育現場と職場などで，幅広く通用する漢語標準語が浸透し，各地の漢語方言の特徴も衰退や変容を余儀なくされている印象を受ける。

6　漢語官話方言に関する記述は侯精一（2002：9）を参照。

7　漢語の音韻用語は一般言語学用語と異なり，通常語頭の子音は声母，語頭子音以外の声調を含む部分を韻母と呼ぶ。

3.2　漢語の韻母との対応

3.2.1　母音脱落

漢語借用の音韻特徴では，漢語の韻母 ao，ia，ian，iang，uo，uan，uang，ou に含まれる i，a あるいは u，o の音が脱落するという規則的変化が認められる。借用元の漢語の複合母音と鼻韻母音をそれぞれ以下の例に示す。

⑾　複合母音

借用元		ウイグル語	例
ao	→	/o/	do.dän「いたずら（*Chi*. 捣蛋 daodan）」
ia	→	/a/	ja「偽（*Chi*. 假 jia）」
ou	→	/u/	du.fu「豆腐（*Chi*. 豆腐 doufu）」
uo	→	/o/	lo.bo「大根（*Chi*. 萝卜 luobo）」

⑿　鼻韻母音

借用元		ウイグル語	例
ian	→	/än/	dän.shi「テレビ（*Chi*.电视 dianshi）」
iang	→	/aŋ/	jaŋ.jin「賞金（*Chi*. 奖金 jiangjin）」
uan	→	/än/	sän.pän「算盤（*Chi*. 算盘 suanpan）」
uang	→	/aŋ/	gaŋ「只（*Chi*. 光 guang）」

2.2 で述べたとおり，借用元の複合母音と鼻韻母音の構造が単母音化されるという現象はウイグル語の母音連続を許容しない規則に従う。上述複合母音の中 ao を除き，こうした解釈ができると考えられる。漢語ウルムチ方言では，ao は［ɔ］で発音され，ウイグル語の円唇母音/o/に直接対応した可能性がある。

3.2.2　母音の融合

一定の条件を満たしたときに，母音の融合が起こると考えられるが，借用語の用例の中で，融合に関するデータが限られるため，その事実を正しく捉えることができない。以下⒀では，複合母音の ue がそれぞれ単母音の/ö/に変化することが観察される。

⒀

借用元		ウイグル語	例
ue	→	/ö/	da.šö「大学（*Chi*. 大学 daxue）」
			di.cö.lyaŋ「ポリエステル（*Chi*. 的确良 diqueliang）」
			šö.gaw「アイスクリーム（*Chi*. 雪糕 xuegao）」
			piŋšö「貧血（*Chi*. 贫血 pinxue）」

そのほか，⒁のように複合母音の ua がウイグル語の o に変化した例も確認される。

⒁　借用元　　ウイグル語　　例

ua　→　/o/　　šaŋxo「冗談（*Chi*. 笑话 xiaohua）」

実は，漢語からの借用語は一様な音に対応しているわけではない。考えられる要因としては，借用の時期，借用語の使用頻度，また個人の話者によって，多少の揺れがあると思われる。

3.2.3　渡り音の出現

漢語の韻頭・韻尾の位置に立つ i はウイグル語の硬口蓋接近音/y/に，韻尾の位置に立つ o はウイグル語の両唇接近音/w/に対応すると解釈すれば，次の⑮と⑯のようになる。

⑮　借用元　ウイグル語　例

i　→　/y/　dyän.zi.yu. jyän「電子メール（*Chi.* 电子邮件 dianziyoujian）」
jyu.ba「バー（*Chi.* 酒吧 jiuba）」
myan.fey「無料（*Chi.* 免费 mianfei）」
cu.cäy「出張（*Chi.* 出差 chuchai）」
šaŋ.šyaw「上佐（*Chi*. 上校 shangxiao）」
ši.myän.näy「洗顔クリーム（*Chi.* 洗面奶 ximiannai）」

⑯　借用元　ウイグル語　例

o　→　/w/　dän.gaw「ケーキ（*Chi.* 蛋糕 dangao）」
šyaŋ.zaw「ソープ（*Chi.* 香皂 xiangzao）」
xän.baw.baw「ハンバーグ（*Chi.* 汉堡包 hanbaobao）」
tuŋ.šyaw「徹夜（*Chi.* 通宵 tongxiao）」
ya.gaw「歯磨き粉（*Chi.* 牙膏 yagao）」

一方では，漢語介音 i に硬口蓋接近音/y/が対応する例を母語話者に再検討したところ，対応する接近音の直前子音との位置に狭い音/i/が挟まれると認識する傾向が見られる。そして，綴りにもその狭い音 i を反映させている。⑮で挙げた例の一部を含め⑰に示す。

⑰　di.yän.zi.yu.jyän「電子メール（*Chi.* 电子邮件 dianziyoujian）」
fa.pi.yaw「領収書（*Chi.* fapiao）」
pi.ji.yu「ビール（*Chi.* 啤酒 pijiu）」
ji.yu.ba「バー（*Chi.* 酒吧 jiuba）」
mi.yan.fey「無料（*Chi.* 免费 mianfei）」
šaŋ.ši.yaw「上佐（*Chi*. 上校 shangxiao）」
ši.mi.yän.näy「洗顔クリーム（*Chi.* 洗面奶 ximiannai）」
su.li.yaw「ビニール（*Chi.* 塑料 suliao）」

上記の用例は基本的に年齢層を問わず，頻繁に用いられる。不規則な例として，50 年代頃に借用されたと思われる以下の軍事用語が挙げられる。

⑱ lüy「旅〈軍〉（*Chi.* 旅 lü）」
lüy.jaŋ「旅団長〈軍〉（*Chi.* 旅长 lüzhang）」
ley.biŋ「兵卒（*Chi.* 列兵 liebing）」

Raximov（1970）

以上で示したように，漢語の音形が保持されたままウイグル語化されていると言えよう。そして，*Chi.* pi.jiu＞*U.* pi.ji.yu のように，二音節の語を三音節として再音節化され，渡り音を再現する。つまり，ウイグル語の再音節化は漢語からの借用語が CVVC の場合はウイグル語の再音節化で CGVC，また CV.GVC となる。こうして母音の間で渡り音を生じさせることにより，借用元の漢語発音に非常に近い音で実現させることできるという話者心理は借用の一つのプロセスとしても考えられる。一方，話者自身の都合で，一時的な置き換え語として用いる場合もあり，これに限って借用語という判断はしにくい。

3.3　漢語子音との対応

3.3.1　漢語唇歯音 f

借用語の音韻対応として，借用元の唇歯摩擦音 f が両唇閉鎖音/p/に対応することは広く認められている。

⑲ puŋ「金銭単位（*Chi.* 分 fen）」
paŋ「ゲームの一種（*Chi.* 方 fang）」
paŋjin「方針（*Chi*. fangzhen）」
paŋcu「絹織物（*Chi.* 纺绸 fangchou）」
pakuän「罰金（*Chi.* 罚款 fakuan）」
pudaw「指導（*Chi.* 辅导 fudao）」
šipän「お粥（*Chi.* 稀饭 xifan）」
gaŋpän「ご飯（*Chi.* 干饭 ganfan）」
säipuŋ「仕立て屋（*Chi*. 裁缝 caifeng）」
leypeŋ「雷鋒（人名）（*Chi*. 雷锋 leifeng）」

上記の例⑲に対し，以下の例⑳は借用された時期が比較的に新しく，漢語の唇歯音 f で実現される（Zäynäp 2008：73）。なお，fayüän と payüän，lofaŋ と lopaŋ などでは，摩擦音/f/と閉鎖音/p/の混用が見られる。（*は現れない音形）

⑳ dyänfängo/*dyänpängo「炊飯器（*Chi*.电饭锅 dianfanguo）」
falü/palü「法律（*Chi.* 法律 falü）」
fapyav/papyao「領収書（*Chi*. 发票 fapiao）」
fayüän/payüän「裁判所（*Chi.* 法院 fayuan）」
faŋšaŋji/*paŋšaŋji「ビデオプレーヤー（*Chi*. 放像机 fangxiang ji）」
fuwuyän/*puwuyuän「従業員（*Chi.* 服务员 fuwuyuan）」

lofaŋ/lopaŋ「ビル（*Chi.* 楼房 loufang）」
miyanfey/*miyanpey「無料（*Chi.* 免费 mianfei）」
yünduŋfu/*yünduŋpu「ジャージ（*Chi.* 运动服 yundongfu）」

⒇では借用されている時期が比較的に新しく借用元の漢語の音形を保ち，摩擦音/f/で実現されていることがわかる。そこで，fayüän と payüän，lofaŋ と lopaŋ など/f/と/p/の混用が起こる要因として，漢語を第二言語として習得をするウイグル語の母語話者が借用語を用いた際に，原語の形式を無意識的に含んでいる可能性が考えられる。さらに，筆者の観察によると，もともと唇歯音を持っていないウイグル語の母語話者は漢語の唇歯摩擦音 f に似せて両唇を近づけてその間に呼気を通すことによって新たに生じた無声両唇摩擦音［Φ］で発音していることが確認される。

3.3.2　漢語のそり舌音

漢語借用の音声・音韻的特徴として，漢語のそり舌音が硬口蓋音化する現象が挙げられる。

⒇　zh，ch，sh［tʂ，tʂʰ，ʂ］→ j，c，š［dʒ，tʃ，ʃ］
Chi. 铡刀 zhadao「押切」> *U.* jado
Chi. 少将 shaojiang「少将」> *U*. šawjiyaŋ
Chi. 出差 chuchai「出張」> *U*. cu.cäy

前述したように，そり舌音［ʂ，］，［ʐ，］は韻頭・韻腹が u で構成される韻母と組み合わせた場合，漢語ウルムチ方言で唇歯音［f］，［v］で発音されるが，同じ音形で借用された用例は確認されない。

3.3.3　鼻音の混同

ウイグル語では/n/と/ŋ/の対立があるが，借用元の漢語鼻音 n，ng がウイグル語の鼻音に規則的に対応する以外にも，借用元の鼻音 n が/ŋ/または ng が/n/と対応する場合がある。

㉒　*Chi.* n → *U*./n/　　bänjaŋ「班長（*Chi.* 班长 tianping）」
Chi. ng → *U*./ŋ/　　päŋzi「太っている人（*Chi.* 胖子 pangzi）」
Chi. n → *U*./ŋ/　　täŋpuŋ「天秤（*Chi.* 天平 tianping）」
Chi. ng → *U*./n/　　kan「鉱山（*Chi.* 矿 kuang）」

ところで，Novgorodskij（1951：35）も漢語の鼻音について，不規則性があることを記述している。

㉓　*Chi.* n→*U*./m/　　dämbo「電報（*Chi.* 电报 dianbao）」

Chi. n→*U*./l/　　yamul/yamun「役所（*Chi.* 衙门 yamen）」

Novgorodskij（1951：35）

ここで，㉓の dämbo は借用元である漢語の歯茎鼻音 n が直後の両唇破裂音 b の影響から両唇鼻音/m/に変化したと考えられる。一方，yamul のように借用元の n がウイグル語に入ると歯茎音/l/に変化する。こうした現象を説明する手がかりとして，官話西南方言に存在する歯茎鼻音［n］と歯茎音［l］の対立の消失，両唇鼻音［m］と［n］は一つになるなどの特徴が挙げられる（侯精一 2002：11）。侯精一（2002：9）は中原官話方言の中には集団地域移住の影響で官話西南方言の要素があると指摘する。この問題についても漢語ウルムチ方言の歯茎鼻音［n］と軟口蓋鼻音［ŋ］の区別が明確ではないという現象を含め，再度詳しく調べる必要があると考える。

4．漢語借用の音節構造

4.1　渡り音の挿入

次に，漢語借用語の音節構造について考える。

ウイグル語の音韻形態論では，有声硬口蓋接近音/y/は音節頭と音節末の位置に現れる。これに対し，有声両唇摩擦音/w/は比較的自由な位置に現れ，語頭では/ü, ö/と共起しないという制限がある（Zäynäp 2008：65-67）。

以下では，窪園（2002）の記述を参考に，音節に現れる接近音 y と両唇音 w を G で示す。漢語借用語も閉音節の末尾子音の位置にたつのは n と ŋ に限られる。子音の結合も CGVC，CGVG かいずれかを許すが，年齢層により CGVC＞CVC あるいは CGVG＞CVVC に発展する場合もある。(.＝音節境界)

(24a)	pi.däy	CV.CVG	「ベルト（*Chi.* 皮带 pidai）」
	xäy.jun	CVG.CVC	「海軍（*Chi.* 海军 haijun）」
	jüy.zä	CVG.CV	「ミカン（*Chi.* 橘子 juzi）」
	säy.liŋ	CVG.CVC	「着うた（*Chi.* 彩铃 cailing）」
	go.wu.yuän	CV.GV.GVVC	「国務院（*Chi.* 国务院 guowuyuan）
(24b)	fa.pyaw	CV.CGVG	「領収書（*Chi.* 发票 fapiao）」
	lu.šyän	CV.CGVC	「道筋，路線（*Chi.* 路线 luxian）」
	pi.jyu	CV.CGV	「ビール（*Chi.* 啤酒 pijiu）」
	su.lyaw	CV.CGVG	「ビニール（*Chi.* 塑料 suliao）」
	guaŋ.caŋ	CVVC.CVC	「広場（*Chi.* 广场 guangchang）」
	tyän.än.min	CGVC.VC.CVC	「天安門（*Chi.* 天安门 tian'anmen）」

šu.byaw	CV.CGVG	「マウス（*Chi.* 鼠标 shubiao）」
šyaŋ.jyaŋ＞šaŋ.jyaŋ	CGVC.CVC	「村長（*Chi.* 乡长 xiangzhang）」
dyän.ši＞dän.ši	CGVC.CV	「テレビ（*Chi.* 电视 dianshi）」
xua.cyaw	CVC.CGVG	「華僑（*Chi.* 华侨 huaqiao）」

ここで，（24a）は規則的音韻変化の例である。一方，（24b）は，借用元漢語の韻母の介音，または韻尾の位置に立つ i がウイグル語の接近音/y/に，そして，韻尾の位置に現れる o が両唇音/w/に対応する例である。したがって，若い年代の話し言葉には，原音保持の傾向が多く見られることもある。

㉕	baw.ši.än	CVG.CV.VC＜CVG.CGVC	「保険（*Chi.* baoxian）」
	pi.ji.yu	CV.CV.GV＜CV.CGV	「ビール（*Chi.* 啤酒 pijiu）」
	su.li.yaw	CV.CV.GVG＜CV.CGVG	「ビニール（*Chi.* 塑料 suliao）」
	fa.pi.yaw	CV.CV.GVG＜CV.CGVG	「領収書（*Chi.* 发票 fapiao）」
	xo.ce.ji.yän	CV.CV.CV.GVC	「汽車駅（*Chi.* 火车站 houchezhan）」

これらの用例が借用語かどうかについて，固定アクセントの有無で判断できると思われる。また，漢語借用語において CV という音節構造が多用される傾向が観察される。

4.2　漢語 r 化の対応

漢語の北方方言の話し言葉には一部の名詞の後ろに「儿」（er）がつくと発音に変化をもたらすことがある。そのほか，「儿」（er）は動詞･形容詞を名詞化する，具体的な事物を抽象化するなど派生的な機能でもよく知られる。

平山（1959：38）は次のように述べる。

（略）北京語には韻尾に［-ɹ］を含む一群の韻母があり，それを持つ音節は形態論上次の二種に分かれる

イ．形態素　儿「子供（*Chi.* er2）」，耳「耳（*Chi.* er3）」…二「二（*Chi.* er4）」

ロ．複合形式　花儿「お花（*Chi.* huar）」，狗儿「犬（*Chi.* gour3）」，干儿「干物（*Chi.* ganr1）」，音儿「音，便り（*Chi.* yinr1）」

ロは基本形式（underlying form）の韻尾が［-ɹ］又は［-ɹ］を含む韻尾に交替して派生されたもので，この交替が加わることを r 化という（略）。

以下で，er「儿」の複合形式に焦点を当てる。

㉖　biŋ.gur「アイスキャンデー（*Chi.* 冰棍儿 binggunr）」
　　da.dur「大豆（*Chi.* 大豆儿 dadour）」

fan.her「お弁当ばこ（*Chi.* 饭盒儿 fanher）」
zu.cur「サッカーボール（*Chi.* 足球儿 zuqiur）」
maŋ.lyur「働き口を求め，大都市に大挙して押し掛けること，もうしくは人（*Chi.* 盲流 mangliur）」
ga.zir「ひまわりの種（*Chi.* 瓜子儿 guazir）」
pi.jir「ゴム紐（*Chi.* 皮筋儿 pijir）」
ji.bär「当番（*Chi.* 值班儿 zhibar）」

ウイグル語の r は不安定な音素であり，音節末でしばしば脱落する。一方，(27)のように漢語から借用された r は比較的に安定した音素であり，後ろに接続する語尾にも影響されず，本来の音形を保持する。また，脱落による母音の長音化は生じない。

(27) zu.cur.si　「サッカーボール（彼の）」（-si 3sg./pl.）
ga.zir.din　「ひまわりの種」（-din 奪格）
da.dur.dä　「大豆に」（-dä 位置格）

4.3　漢語 zi「子」の対応

鐘家芬（1995：55）では，「漢語の zi（子）を借用するにあたり，母音調和に従って，i がウイグル語の a，あるいは ä に変化する」と述べられている。

通常，漢語の zi「子」は動詞，形容詞，名詞の後に付く名詞を派生する接辞であり，声調は軽声となる。以下に zi＞za/zä の例を挙げる。

(28) ja.za「骨組み（*Chi*. 架子 jiazi）」
jo.za「机，テーブル（*Chi*. 桌子 zhuozi）」
la.za「唐辛子（*Chi*. 辣子 lazi）」
lu.za「方法，手段（*Chi.* 路子 luzi）」
mo.za「帽子（*Chi.* 帽子 maozi）」
ca.za「検問所（*Chi*. 卡子 qiazi）」
gaŋ.za「コップ（*Chi*. 缸子 gangzi）」
koy.za「お箸（*Chi*. 筷子 kuaizi）」
jaw.za「餃子（*Chi*. 饺子 jiaozi）」
jaŋ.za「印鑑（*Chi.* 幛子 zhangzi）」
paŋ.za「デブ（*Chi*. 胖子 pangzi）」
yaŋ.za「様式（*Chi*. 样子 yangzi）」
än.zä「裁判事件など（*Chi*. 案子 anzi）」
näy.zä「ミルク（*Chi*. 奶子 naizi）」
wän.zä「肉団子（*Chi*. 丸子 wanzi）」
bän.zä「班，コース（*Chi*. 班子 banzi）」
jü.zä「ミカン（*Chi*. 橘子 juzi）」
cäy.zä「茄子（*Chi*. 茄子 qiezi）」
ho.hän.zä「立派な男（*Chi*. 好汉子 haohanzi）」
mi.läŋ.zä「のれん（*Chi*. 门帘子）menlianzi」

また，漢語ウルムチ方言の語形成の特徴とされる名詞の重複もウイグル語の借用語で多く用いられる。

(29) ta-taza「重複（*Chi*. 沓沓子 tatazi）」
yaŋ-yaŋza「デザイン（*Chi*. 样样子 yangyangzi）」

pä-päyzä「札（*Chi*. 牌牌子 paipaizi）」　　ja-jaza「二重の（*Chi*. 夹夹子 jiajiazi）」

しかし，同化しない例として，複合語借用による語中の位置に現れる場合である。

(30)　la.zi.jaŋ「唐辛の味噌（*Chi*. 辣子酱 lazijiang）」

さらに，母音調和が借用語にも厳密に適用されている場合とそうではない場合があり，母音が同化を起こしていない例は Raximov（1970）にある。

(31)　dawzi「ナイフ（*Chi*. 刀子 daozi）」　　hezi「原子の総称（*Chi*. 核子 hezi）」
　　cezi「車（*Chi*. 车子 chezi）」　　cozi「はんこ（*Chi*. 戳子 chuozi）」
　　Raximov（1970）

ところで，後ろに派生接尾辞が付く場合，ウイグル語の音韻的規則に従い，母音の逆行同化が起こることがある。

(32)　tän.zä「屋台（*Chi*. 摊子 tanzi）」>tän.zi.ci「大道商人」（-ci 名詞派生接尾辞）

一方，漢語には語幹形態素として声調をもつ zi「子」がある。これらの語彙は人名などの固有名詞が多用され，ウイグル語に借用された際，第一音節は最終音節より強く発音しなければならない。

(33)　koŋzi　「孔子（*Chi*. 孔子 kong3zi3）」
　　lawzi　「老子（*Chi*. 老子 lao2zi3）」

そこで，鐘家芬（1995：55）の zi の母音が母音調和に従うという記述に対し，先行母音に同化して，語末尾の i がウイグル語の a あるいは ä の音に対応するという点で無理なく説明できると考えられる。さらに，次の補足も必要である。接尾辞としての zi「子」は先行母音に同化するが，そうではない場合，同化しない。

4.4　借用語のアクセント

ウイグル語は固定アクセントである。原則として最後の音節の母音が強く発音される。語の最終音節に付加される接尾辞によって，(C)V 1(C).(C)V 2(C)……ˈ(C)Vn(C)のようにアクセント位置（ˈで表わす）が移る。ただし，語中の母音弱化に伴う母音の脱落，音節の縮減，また無声化，子音の脱落などの変化が生じた時，アクセントが後ろから前に移動する場合がある（趙相如ら 1985：16）。

(34)　be.ˈliq「魚」→be.liq.ˈci「漁民」（-ci 名詞派生）→be.liq.ci.ˈliq「漁業」
　　（-liq 名詞派生）→be.liq.ci.liq.ˈmiz「私たちの漁業」（-miz 1pl.）→

be.liq.ci.liq.miz.ˈni「私たちの漁業を」(-ni 対格)

趙相如ほか（1985：16）

ウイグル語の固定アクセントに対して，漢語は音節ごとに決まっている声調(tone)を用いる。借用の際は通常，ウイグル語の固定アクセント規則に従うが，借用元が複合語の場合，また母音の質によっても異なる場合がある。

5．終わりに

本稿での論点のまとめを行う。

まず，本稿での背景となるウイグル語における漢語借用語の先行記述及び現状などを簡単に解説した。従来の研究で指摘があった漢語借用語の典型的な音の対応を，次の 5 つにまとめた：1）複合母音の短縮；2）唇歯摩擦音の両唇閉鎖音化；3）漢語 zi［ʦɿ］の母音同化；4）そり舌音の硬口音蓋化；5）破擦音の摩擦音化；

次いで，現代ウイグル語の音韻特徴と音節構造についての先行記述を確認したうえで，借用語の音韻特徴を考えるとき，そもそも地域で話される借用元となる漢語方言を基盤として考えるべきことを示した。

そして，日常的に定着している漢語からの借用語のデータを基に検証を行い，借用語の音韻構造特徴についての記述を試みた。音韻構造の中でも音の変化と音節構造に焦点を置いて，特に，母音の変化，音韻構造の変化などの現象を分析対象とした。そこで，漢語がウイグル語に借用される過程でウイグル語の母音の種類，子音の種類を基に，音の交替が行われていること，また，子音の変化などの現象を分析対象とした。具体的には次の 5 点を挙げた。

Ⅰ　母音連続を避けるため，母音脱落，半母音化などが起きる。

Ⅱ　唇歯音 f［f］＞両唇音 p［p］＞両唇音［Φ］への変化する可能性。

Ⅲ　ウイグル語の閉音節語に対し，借用により開音節語彙が増加。

Ⅳ　借用語の再音節化はウイグル語の音韻規則に合わせる。

Ⅴ　漢語方言による借用語での n と ng の混同

漢語からウイグル語化されて借用語になったとき，借用語はウイグル語の言語体系の中で音韻・語形・意味の上で，変化するのは必然である。ウイグル語は漢語と比べ音の種類も少ないことから，音韻上の変化に加えても当然，ウイグル語ならではの語形短縮も行われる。一方で漢語からの借用においてはウイグル語の構造に適応させるばかりではなく，漢語の構造をそのまま取り入れる場合もある。

以上，ウイグル語が他言語である漢語の接触によりどのような影響を受けたのか，音韻面について観察してきた。しかし，借用に起こった文法的な変化，借用語の意味的な対応などに触

れていないため，検討の不足する点がまだ残っている。今後も様々な形態・統合・意味的な特徴を観察した上で，引き続き議論することが必要である。

（ミヒライ　ウィーリ・歴史地域文化学専攻）

謝　辞

最後，本稿の作成にあたり，貴重な助言をくださった津曲敏郎先生，山田洋子氏，並びに民族言語学ゼミの皆様に，ここに記して感謝の意を申し上げます。ただし，本稿の内容に関する責任は言うまでもなく筆者本人にあります。

参考文献

窪園晴夫　2002「外来語の音節構造とアクセント」『音声研究』Vol.6/1：79-97，日本音声学会.
竹内和夫　1991『現代ウイグル語四週間』東京：大学書林.
林　　徹　1996『現代ウイグル語ウルムチ方言語彙集』東京：東京外国語大学アジア･アフリカ言語文化研究所.
平山久雄　1959「北京語の音韻論に関する二三の問題　特に主母音とｒ化について」『言語研究』35：31-51，日本言語学会.

Hahn, Reinhard. F. 2006 *SpokenUyghur,* Seattleand London: University of Washington Press.
Novgorodskij, V. I. 1951 *Kitaske elementy v ujgurskom jazyke*. Moskva: Izd-vo M. I. V.
Näsrulla 1980 *Hazirqi zaman uyъur tili*（現代ウイグル語），烏魯木斉：新疆人民出版社.
Raximov, T. R. 1970 *Kitajske elementy v sovremennom ujgurskomjazyke*. Moskva: Nauka.
Mirsultan, Osmanof. 1989 *Hazirqi zaman uyъur tili dialikitliri*（現代ウイグル語方言），烏魯木斉：新疆青少年出版社.
Zäynäp,Niyaz. 2008 *Hazirqi zaman uyъur tilidin omumiy sawat—fonetika wä sintaksis*（現代ウイグル語概論—音韻と文法—）北京：中央民族大学出版社.

陳慧優／瑪依拉　1996〈維吾爾語中漢語借詞的維語化〉《烏魯木斉成人教育学院学報》3，14-17.
戴慶厦ほか　1992（編）《漢語与少数民族語言関係概論》北京：中央民族大学出版.
力提甫・托合提　2008〈新疆民族語言文字工作的実際簡介〉《少数民族語言使用与文化発展：政策和法律的国際比較》207-211．北京：中央民族大学出版社.
侯精一　2002（編）《現代漢語方言概論》上海：上海教育出版社
高莉琴　2005a〈以科学的態度科維吾爾語中的漢語借詞〉《新疆大学学报》5，132-137.
　　2005b《不同時期維吾爾語中的漢語借詞》烏魯木斉：新疆大学出版社.
高莉琴ほか　2006《新疆的語言状況及び推広普通方略研究》北京：北京語言大学出版社.
高士杰　1994《維吾爾語方言与方言調査》北京：中央民族大学出版.
張燚　2010〈2005－2009新疆少数民族〝学前双語教育〞政策措施综览〉《新疆大学学报（哲学･人文社会科学版)》1，132-137.

趙相如／朱志宁 1985《維吾爾語簡志》北京：民族出版社.
――― 2008 中国少数民族语言简志编委会　修订本编委会〈維吾爾語〉《中国少数民族语言简志丛书　修订本／卷伍》1-141，北京：民族出版社.
蘇連哈萨克斯坦社会科学院语言研究所维吾尔语研究室（编）陳世明，廖泽余（訳）1987《現代維吾爾語》（原作 1963 年出版）烏魯木斉：新疆人民出版社.
周磊　1995《烏魯木斉方言詞典―現代漢語方言大詞典・分卷》南京：江蘇教育出版社.
――― 1998《現代漢語方言音庫―烏魯木斉話音档》上海：上海教育出版社.
鐘家芬　1995〈浅談維吾爾語中的漢語借用〉《喀什師範学院学報》3，54-57.
閻新紅／欧阳伟　2000〈試論維吾爾語中的漢語借用〉《喀什師範学院学報》：3，69-72.